

SKY コーナー

「関東KAIZENフォーラム2017」開催

一日々の気づきが未来を変える
みんなで築こうカイゼン活動—



情報通信エンジニアリング協会 関東支部

はじめに

2017年11月13日、東京都江戸川区のタワーホール船堀において、会員会社はじめ関係者約440名にお集まりいただき、「関東KAIZENフォーラム2017」を開催しました(写真1)。

冒頭、小園 文典 関東支部長より開会挨拶がありました(写真2)。「この関東KAIZENフォーラムは、通信建設会社におけるSKY活動の取組みとして今回で31回目となります。入社して31年というのだいたい53、54歳のベテランになっているところです。歴史も長く、いろいろ工夫してやっておられますが、どうしても会社のなかで、アクセス

はアクセス、モバイルはモバイル、と専門分野にわかれてしまいがちです。

でも、今日は他の分野でも他の会社の発表でも良い工夫を真似てください。皆さんは会社や専門は違って、NTT様の仕事を請け負っています。何かあったときはみなで助け合う、会社をこえて助け合う仲間です。そういった意味でも今日は意義ある一日です。ぜひ会社や専門分野にとらわれることなく、幅広く話を聞いて参考にしてもらえればと思います。」

成果発表

村田 朋己氏 (株)エクシオテッ

ク)、國谷 朋子氏 (株)協和エクシオ)の司会により(写真3)、会員各社から選ばれた代表7サークルおよび協賛発表1サークルによる成果発表が行われました(表1・写真4)。施工者に設計情報を確実に伝える改善策から、地上からのケーブル敷設ツールの開発まで幅広いテーマで発表が行われ、会場からは熱心な質問が寄せられていました。

発表に続き、大会スローガンに選ばれた日本コムシス(株)の小野 勇三氏の「日々の気づきが未来を変える みんなで築こうカイゼン活動」、



写真1 タワーホール船堀



写真2 小園支部長挨拶



写真3 成果発表司会

表1 発表テーマ概要

| No. | テーマ名 | 概要 | 社名・サークル名／チーム名 | 発表・PC操作 |
|-----|-----------------------------------|--|-------------------------------|-------------------------|
| 1 | 施工者に設計情報を確実に伝えるには | 施工サイドから設計図に記載してある内容の問合せが頻繁にあったことから、設計者の意図や注意喚起等を確実に引き継ぐための工夫・改善を図りました。 | (株)TOSYS ちーむ 六文銭 | 発表：徳武 透 PC操作：山崎 晶也 |
| 2 | 透明光ファイバキットの開発 | 透明光ファイバ配線工事における専用キットの開発により、可搬性および作業性の改善を図りました。 1. キット化 ・多くの専用工具および部材の運搬、整理を「キット化」することで、可搬性の向上を図りました。 2. 専用リール ・「透明光ファイバ専用リール」を開発することで、ケーブルの燃りや空転が低減し、配線時の施工性の向上を図りました。 | (株)つうけん つうけんKAIZENファースト | 発表：久保 寛晃 PC操作：敷山 世奈 |
| 3 | 管理共架柱建替工事における仮柱抑制 | 共架柱建替工事において、共架柱を元位置へ望まれるお客様が多く、そのため仮柱建替等の作業工程が発生します。 お客様望みの仮柱を抑制し、工事の加速化・効率化を図ることを目的に、折衝手順を明確にし、折衝に必要なツール等の整備等を行い、折衝力の向上を図りました。 | (株)ミライト・テクノロジーズ NO MORE 仮柱 | 発表：大塚 隆博 PC操作：荒井 武 |
| 4 | ケーブル吊り上げ治具の考案 | 所内系工事で設備更改が行われる際に、従来設備のケーブル撤去作業がともないます。通信二重床下に敷設されているケーブルは、世代の古いケーブルが下方に埋もれているため、安全に撤去するためには、上部に敷設されているケーブルを持ち上げて作業を実施する必要があります。 本治具は、市販の荷締めベルト等を用いてケーブルを吊り上げる際に使用します。現場作業での扱いやすさと安全性を考慮し、軽量なアルミ製としました。導入展開の促進を図るため、現行のアルミ二重床に採用されている強度あるアルミ材を流用（部材の切断／孔開けのみ加工を追加）し、価格を抑制しました。 | (株)協和エクシオ 東京NWEC | 発表：北原 秀和 PC操作：稲村 浩明 |
| 5 | 作業効率・安全性の向上にむけた保安用品の改善 | 保安柵は、工事前の大変重要な作業であり、通行する車両・歩行者等を安全に誘導するため不可欠なものです。設置にあたっては、道路使用許可申請にあるように保安柵を設置していますが、保安柵設置には、カラーコーン6個～12個・コーンバー5本～11本の物品が必要であり、設置に時間がかかることから、設置時間短縮に向け市販のコーンテープ（長さ4m）の物品を改良し、長さを40mまで伸縮可能な「COMLINE」を開発しました。本製品を使用することにより、カラーコーン・コーンバーの使用個数を少なくすると共に設置時間も短縮することができ、更に取り出し・収納・設置が容易にでき、安全性の向上も図られました。 | 日本コムシス(株) CCU | 発表：山田 傑 PC操作：小畑 誠道 |
| 6 | バックホウの接触事故防止「重機作業セーフティパネルの開発」 | ミライト東京土木技術センターでは、工事全体の約80%が「市街地」の道路上を掘削する工事を実施しています。その多くは、狭隘作業に伴い作業従事者と掘削重機との近接作業となっており、ヒヤリハットも発生していることから、作業従事者が現場内で「掘削重機の接触危険エリア」を容易に気づきやすくすることができる物品を考案しました。 | (株)ミライト Public | 発表：大石 剛 PC操作：吉住 祐 |
| 7 | ケーブル線番対照方法作業効率化 | 地下鉄工事は、作業時間がAM1:00～4:00まで（約3時間）と短いです。 私たちは、常日頃からできるだけ時間を短縮したい・手戻りなく工事を進めたいと考えながら作業しています。今回のテーマ選定理由として地下鉄工事全般に「切替作業」が発生する工事が多く、誤接続・誤切断等を防止するために「ケーブル線番対照方法作業効率化」に決めました。 | (株)エクシオテック チームメトロ | 発表：岩坂 慎一郎 PC操作：圓應 武志 |
| 8 | 【協賛発表】 地上からのケーブル敷設ツール「GATS」の開発 | 架空ケーブルの一束化区間におけるケーブルの通線作業を、昇柱せず地上から行うことのできる、安全性と効率性を兼ね備えたツール「GATS」を開発しました。 | 協栄線材(株) | 発表：中村 陽太 PC操作：中村 実 |

安全標語に選ばれた(株)エクシオテックの山口 典男氏の「これくらいゆるむ心に ひそむ事故 ルールを守って安全作業」を参加者全員で唱和しました（表2・写真5）。

特別講演

日本ヒューマンファクター研究所 取締役副所長・教育開発研究室長の塚原 利夫様から「機長の危機

管理 ～ヒューマンファクターの視点から～」と題して安全と危機管理についての特別講演をいただきました。



(株)TOSYS



(株)つうけん



(株)ミライト・テクノロジーズ



(株)協和エクシオ



日本コムシス(株)



(株)ミライト



(株)エクシオテック



協栄線材(株)

写真4 成果発表

表2 大会スローガンおよび安全標語

大会スローガン

| 作 品 | 結 果 | 会 社 | 氏 名 |
|-----------------------------------|-----|------------|-------|
| 日々の気づきが未来を変える みんなで築こうカイゼン活動 | 最優秀 | 日本コムシス株式会社 | 小野 勇三 |
| KAIZENは 人の輪 知恵の輪 職場の輪 創意工夫で 大きな成果 | 入選 | 株式会社TOSYS | 伊藤 浩明 |
| 慣れた作業を見直す目 創意工夫と改善意識 | 入選 | 三英電設株式会社 | 向山 重人 |
| 一声 一手間 一工夫 一つ一つがKAIZEN活動 | 入選 | 株式会社協和エクシオ | 香川 和道 |

安全標語

| 作 品 | 結 果 | 会 社 | 氏 名 |
|--|-----|-------------|--------|
| これくらい ゆるむ心に ひそむ事故 ルールを守って安全作業 | 最優秀 | 株式会社エクシオテック | 山口 典男 |
| 安全は 止める勇気と心の余裕 慌てず、焦らず、安全確認 みんなでしよう 指差呼称 | 入選 | 株式会社協和エクシオ | 田口 由夏 |
| 早くやるより安全に 上手くやるより確実に 焦らず無理せず 安全作業 | 入選 | 株式会社ミライト | 東海林 亮介 |
| ルール順守の積み重ね 守る勇気と続ける努力 みんなで目指そう ゼロ災害 | 入選 | 株式会社TOSYS | 駒村 拓也 |

表彰式

特別講演に続き、発表8サークル、大会スローガンおよび安全標語入選者（最優秀2名）に対し、小園 文典 関東支部長から感謝状・副賞の贈呈が行われ、会場は大きな拍手に包まれました（写真6）。

また、今回からアンケート・システムを導入し、聴講者の皆さまに手持ちのスマートフォンから一番参考になった発表1つに投票していただきました。

その結果、成果発表の中から(株)ミ

ライトによる「バックホウの接触事故防止『重機作業セーフティパネルの開発』」が聴講者特別賞として選ばれました。

おわりに

最後に、情報通信エンジニアリング協会 藤田専務理事より、「KAIZEN活動は終わりのないトライアルです。今回の発表では、コスト削減や安全推進など、現場での努力が非常によく見えるテーマがたくさんあったと感じました。

忘れてはいけないことは、考え続けることです。ふだんの仕事に埋没せずに、どうしたら仕事がよい方向にいくのかと、つねに考え続けていきたいと思っています。」と総評があり、関東KAIZENフォーラム2017は盛会のうちに終了しました（写真7・8）。

なお、当協会ホームページでは関東KAIZENフォーラム2017の様態を動画でも掲載しておりますので、あわせてご覧ください。（<http://www.itea.or.jp/topics/20171121.html>）



写真5 大会スローガンおよび安全標語の唱和



写真6 表彰式



写真7 藤田専務理事総評



写真8 記念撮影